



水稻の育苗管理について

水戸における桜の開花予想（日本気象協会：3月7日現在）は、3月には暖かい日が多くなると予想されており、昨年より7日早く、平年より7日早い3月23日頃とされています。これからは日に日にぽかぽか陽気となり、間もなく水稻の種まきや育苗を始める時期となります。

水稻の育苗を始めるにあたって、種子や培土、育苗箱など播種までの準備については、「営農NEWS 第3023号（令和5年2月28日発行）」の「水稻育苗の準備にあたって注意すること」を参照してください。

ここでは、水稻の播種から育苗中における育苗管理の注意点について紹介します。

1 播種

播種は、田植えの予定日より逆算して、コシヒカリで約20日前を目安に始めましょう

播種量は、育苗一箱あたり催芽粃で170~230g（乾粃で140~180g）とし、均一に薄く播きましょう
覆土前に十分な灌水を行い、覆土後に灌水は行ないません

2 出芽

出芽の管理は

積重ね法では 温度 28~30℃で2~3日間

平置育苗法では 昼間 30℃以下、夜間 15℃以上で4~6日間とします

なお、平置育苗法は根上がりを防ぐため覆土をやや厚めにし、保温性に優れた被覆資材（太陽シートなど）をべたがけします

注1 **30℃以上の高温で、もみ枯細菌病が発生しやすくなるので、育苗期間中の温度管理は特に注意しましょう。**

注2 温度不足で出芽に長時間かかり過ぎると、苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

3 緑化

白い芽が出揃ったら被覆資材を除き、2~3日間かけて徐々に光にあてます

苗は急激な温度変化に弱いため、**昼間 20~25℃、夜間 15~20℃**とします

緑化直後に晴天の場合は、遮光資材などで一時的に遮光を行いながら慣らしさせていきましょう

注1 緑化初期に強い光にあてたり、暗所日数が長すぎて苗が伸びすぎると、白化しやすいので注意しましょう。

注2 温度計はなるべく苗の近くに設置し、こまめに検温して管理しましょう。

4 硬化

本葉1枚くらいになったら、その後は**昼間 20~25℃、夜間 10~15℃**で10~14日間を目安に適切な管理をします

かん水は午前中に行い、日中の高温時や夕方は避け、夕方にはやや乾く程度のかん水量にします

注1 2葉期頃から移植期にかけて、低温が続いた後に急に高温になると、ムレ苗が発生しやすいので、低温時には土壤をやや乾燥気味にして保温に努めてください。

注2 水のかけ過ぎや換気不足などは、徒長や発根不足の原因となりますので注意しましょう。

注3 育苗ハウス内の最低温度が10℃以下になるとピシウム菌などによる苗立枯病が、また、高温多湿になるとリゾプス菌などによる苗立枯病が発生しやすくなるので、夜温の低下や日中の温湿度管理に注意してください。

なお、「イネ育苗中における苗立枯病害の防除対策」については、「営農NEWS 第3024号（令和5年3月1日）」を参照してください。

5 田植え前

田植え前になったら、苗を外気に十分慣らしませす。草丈は13cm前後、葉数は2.2~2.5葉で生育が揃い、根張りの良い、がっちりした苗に育てましょう

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。